今こそ、新しい出発の時。「住んでよかった」福島めざして―

にしやま尚利通信 ●秋号 2011.10 ●発行 にしやま尚利を支える会

テレビもゲームもなかった昔、子供たちの世界は、いつも「外」だった。みんなお日さまの下で遊んだ。元気だった。今、子供たちが安心して外で遊べる福島をつくることは、「住んでよかった」福島をつくることです。

放射能から身を守るために重装備で通学。外で遊べない今の福島の子供たち…。

にしやま尚利は、次の課題に全力で取り組みます。

1. 脱原発そして、クリーンエネルギー都市・福島づくり

「原発なんて、人間の手でどうしようもねぇもの、作んねばいがったのぉ」―相馬から福島市の避難所に来た83才のおばぁちゃんの言葉です。おばぁちゃんは、3月11日の大津波で、家と働き盛りの孫を失い、そのお嫁さんと幼い3人の子供たちと自分が残されたということです。

「絶対安全」とされた原発はどうなったか―、そして、あの大事故を人間の手で順調に収束できたか―答えは、おばぁちゃんの言う通りです。

世界で起きる地震の10回に1回は日本で起きるという国土に、今、54基の原発があり、国内の電力使用量の30%を原発で補っています。

「もう、原発に頼らない」と宣言しましょう。そして“湯水のように”電気を使ってあたり前としてきたこれまでのくらし・やり方を、家庭も企業も考え直していく時です。

そして、安全安心のまちづくりを進めるために、クリーンエネルギーによる発電―小水力発電、太陽光発電、バイオマス発電など―の起業を促進し、クリーンエネルギー都市・福島を、未来の子供たちに手渡しましょう。

2. 放射能による健康被害のサポート体制づくり

東日本大震災で、原発事故という未曾有の災害を受けた福島が、まっ先に取り組まなければならないのは、放射能の害から子供たちを守ることです。

県は、市町村と連携しながら、被災地のリーダーとして、除染作業、県民の健康診断を徹底的に進めることが急務です。同時に5年、10年、20年後に放射能による健康被害が出た場合の、医療体制、保障体制を早急に確立しなければなりません。

今、様々な組織、団体がこの体制確立を求める

運動を展開していますが、これらの運動を結びあって、県民全体の大きなうねりとして国に、東電に、要求していかなければなりません。

3. 風評被害の補償 国へ減税・免税の要求

原発事故以来、広がり続ける風評被害によって、農業・漁業・観光などの基幹産業はもちろん、様々な企業、組織、団体、個人（子供たちまで）が、経済活動を著しく阻まれたり、くらしや人生にダメージを受けています。「放射能が心配だから買わない」「福島に行かない」「遺伝子が不安だから結婚相手にしない」「放射能をうつされるから福島の人に近づかない」—こういう風評はいつまで続き、広がるのか予測がつきません。

この物心両面にわたる被害に対する国の補償は、減税・免税によって行われるべきです。固定資産税、自動車税、ガソリン税などの減税・免税を要求していきます。

4. 今こそ幼児教育の無償化

原発事故以来、親の苦悩は深まるばかりです。子供を安全地帯に避難させたくても、様々なつごうで不可能な家庭がほとんどでしょう。

せめて、飲料水と食品を安心できるものに、と思っても経済的な負担が大きいはずです。—こういった実情の中で、親の負担を少しでも軽減するために、幼児教育の無償化（国が負担）を実現しなければなりません。

5. 防災教育と安心安全への備え

自然の大災害はまたやってくるでしょう。住民の防災教育に力を入れ、地域ごとの避難体制、きめ細かな防災マップを作ります。

今回の大震災で被害を小さく食い止めることができた地域は、日頃の防災訓練と地域の連携であったことに学び、生かしていきたいものです。

6. 地域の祭りの復活は 地域の絆の復活

地域には、昔から伝わる伝統の祭りがあります。しかし、それらは今、消えかかっている地域が多いのは残念です。今こそ、地域の祭りをみんなで復活させましょう。

祭りは、その準備や当日の役割、後始末などに長い時間がかかり、地域の人たちが力を合わせなければ実施できません。お年より、働き盛りの人、若者、子供たち—地域のいろいろな立場、世代の人が助けあい、教え学びあって一つの目的に向かって歩む祭りは、地域の絆づくりでもあります。

地域の絆の復活こそ、防災体制づくりであると同時に、子供たちを育てる地域の教育力の復活でもあります。—そしてこれが「住んでよかった福島」づくりのゆるがぬ土台となっていくはずです。

子供たちの元気な声がきこえない校庭、子供の姿が見えない公園に来る度、「住んでよかった」といえる福島づくりを今こそ進めなければならないと思います

〈にしやま尚利プロフィール〉

1965年（昭和40年）2月26日、土湯温泉町に生まれる。土湯のあったかい温泉町で幼少期を過ごす。実家はラーメン屋。
市立土湯小学校・西信中学校、県立福島東高等学校（第1期生）を経て法政大学経済学部を卒業。
1987年、木下工務店で宅地建物取引主任者として9年間住宅不動産営業に携わる。1996年5月帰郷し、白河にて代議士の秘書として政治の基礎を学ぶ。1999年福島市議会議員（1期）・2003年福島県議会議員（1期）を務める。現在両親、妻、子供3人（8才・5才・3才）と7人暮らし。

●**座右の銘**：未見の我
●**趣味**：旅行、スポーツ、読書

にしやま尚利を支える会
〒960-2157 福島市土湯温泉町杉ノ下25
TEL・FAX 024-595-2314　nishi70@nippon.email.ne.jp

〈討議資料〉